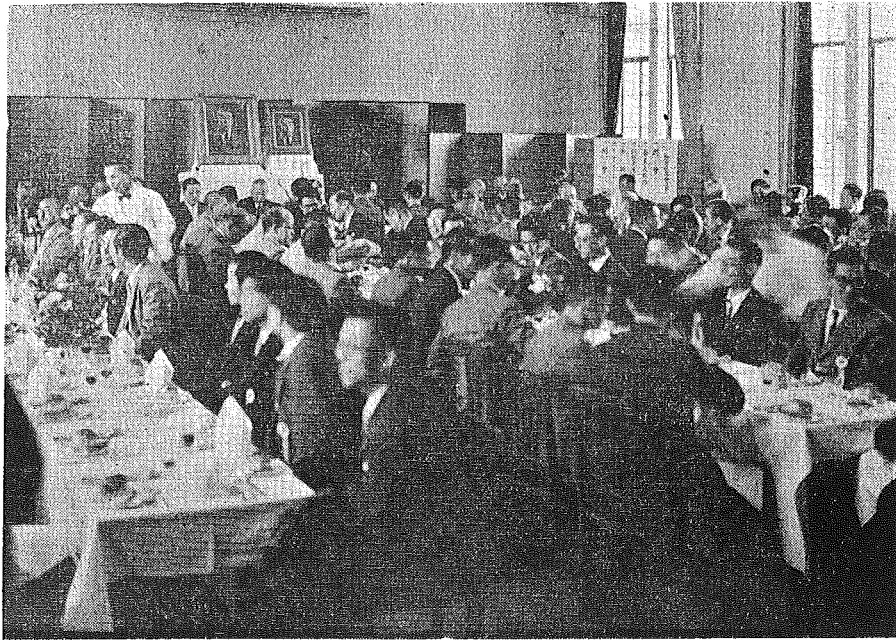


洛友会報

京都市左京區吉田
京都大学工学部
電気科教室内
洛友会

阿部先生の記念晩餐会。楽友会館講堂に溢るゝ盛会の片鱗である。東山の裾元、吉田の里の静かな一宵であつた。先輩、同窓、師弟など綾織のように入り乱れた美しい絵模様のように嬉しさと、喜ばしさと、楽しさの渦巻きであつた。



阿部清先生記念会

我々の電気教室では、停年に達するまで御元気で教鞭を取られた先生ばかりである。難波先生、青柳先生、小倉先生、本野先生、岡本先生特別の御元氣な馬養先生、そして今回は阿部先生と目出度く退官せられ悠々自適せらるる事を我々は心から御喜び申上げる次第である。六月四日午後一時から楽友会館で記念講演会。

最近の配電問題について
和田 昌博氏

最近の直列蓄電器について
大森 武司氏

我国に於ける電気通信事業の最近の動き
永田 良孝氏

電気用磁器質材料の進歩
田中 哲郎氏

の有益な講演があり、阿部先生の御挨拶。そして講演会は終了した。同じ場所、記念品贈呈式が行われた。金屏風を背にして、先生の肖像画二面が飾られ、その前に、先生の御家族御揃い着席。

松田委員長の式辞があり、記念品の贈呈が拍手裡に行われた。祝辞。学長代理(学長出張中)友人を代表して加藤信義教授。門下生を代表して清野教授。

これに対して先生は誠意溢るる謝辞を述べられた。式が終り一同談話室に移つて談笑する。その間に晩餐会の準備がすすめられた。

記念晩餐会が宣せられる。先生、御台閣、御台閣を中心一同は席に着く。さすがの講堂に、ぎつし詰つて盛大な事だ。委員長挨拶。教室主任挨拶。阿部先生の挨拶。それから祝盃をあげ、先生の長寿を祈りながら晩餐に喜びを分つのであつた。

(テーブルスピーチ)
化学研究所長 堀尾教授
東京大学 山下

生産 研究所 星合
大阪大学 七里
同窓生 乙葉真一氏
等の、先生を縦横無尽に眺めての話し、感心をしたり、笑つたりして楽しい一夜を過した。天候に恵まれて一層の喜びを覚えた。
最後に、大阪大学の熊谷教授の音頭で、阿部先生の万歳を三唱し、拍手の内に散会した。

相原君の 出所を祝いて

大 四 田 近 哲 三

六月十日ラヂオは朗かにB級戦犯相原賀十郎君の釈放を伝えた、この名は洛友会名簿の大正十四年の中にあるのである。
我々の年度は恐らく応召者中の最老骨と思われるが、同君は志願兵、予備将校でもあり支那事変の勃発と同時に早速召集され徐州陥落を機に一度還えされたのが、大東亜戦争の突入と共に再応召となり、人生の最盛期を戦争で暮した上、更に戦後を戦犯として巣鴨で暮したと云う全くの犠牲者である。

最後の職務が通信司令であつたのがこの悲運を齎したもので、御記憶も去らぬであろう生体解剖に連座し、この間関西配電の同僚、広島電信隊の同期生として一本松君の弁護に奔走、四千名の署名を取つてマ元帥へ助命歎願と云う美談もあり、漸く死刑を免れたが二十五年と七月の刑を云い渡されたものである。
普通の戦犯は刑期の三分の一を経過すれば無条件で釈放されるのが、同君の場合はアメリカ関係の上、悪質とあつてこの恩典も適用されなかつたのが、この度の朗報は何としてもお芽出度い限りである。

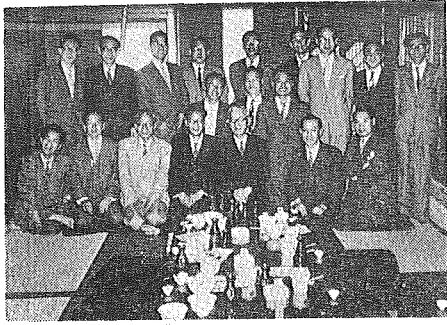
拘禁と云つても講和発効後は極めてフリーでクラス会の場合は常に呼

び出し慰め励ましたもので、内部での生活も設備は良く食物も充分で階級差は無く同病相憐れむの心境で和氣アイ／＼たるものであつたと云うことであるが、釈放が始まつてからは御互に腹の探り合ひで気分がチグハグになり極めて素直たるものになつたと云うのも人情の機微を示すようである。
この間常に念願を放れなかつたのは出所後の生活であつたと云うことも無理もないことであり、未だ一働き出来る年輩のこと一刻も早く適職に就かれ後生を愉快に暮されることを祈つて熄まない。

北陸支部総会

北陸支部では去る五月十八日(水)金沢市香林坊(金沢ではこゝが最も賑やかなところと云われる)街角にある魚市場で支部総会をかねて懇親会を開きました。加藤信義先生の御出席を戴いて富山方面及福井方面からも割合多数参加せられて賑やかに、母校教室の現況等を伺つたり種々談笑、爆笑の裡に約二時間余、寄せがきを最後になごやかな雰囲気の下に午後八時散会致しました。
当日の出席の方々は左の通りです。(無印は昭和)

- 前列向つて右より
- 竹下 亀藏 4 佐伯光太郎大12
- 加藤 信義先生 高木 金生 4
- 小柳 美一 7 藤宗 寛治 13
- 萩原 博 7
- 中列向つて右より
- 岩本 市平 22 松崎 司郎 28
- 野口 鍊雄 33
- 後列向つて右より
- 田中 信義 16 杉本 広
- 篠原 恭 9 長田 晋吾 7
- 石川 清 7 山上 隆也 10
- 西岡 敬二 7 増田 感雄 8
- 浅野 収一 23



北陸支部

晩酌

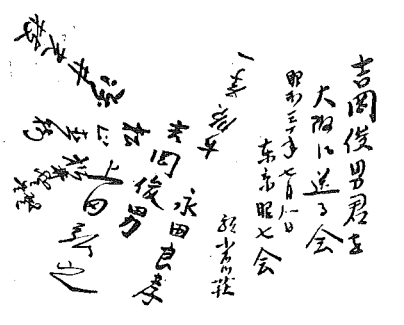
今年の梅雨は予報に反して雨の少ない所謂空梅雨であつたが、京都ではあんなつかしい試験時分を思い出す西山より湧き出づる黒雲に乗つて屋過ぎより沛然たる驟雨を齎した日である。

その夕刻、鳥養先生が先頃名誉教授になられた冶金の西村先生と電気のア部先生とをお祝に招待され、筆者もそのお招伴に預つた時のことである。

せる雨後の涼風を満喫しながら、常になく杯を重ねた次第である。先生も中々いけません。いや今夕は心おきない友人達とで思はず過ぎているとのこと、それでは一本はいけますか。いや土佐では一本といえ

関西支部家族会

行事の一つとして家族同伴のリクリエーションが六月十九日に催された。それは宝塚で歌劇を見、それから、次の公演の稽古を見せて貰うというのである。これは京阪神急行電鉄専務取締役、森薫氏(昭三)の一方ならぬ御尽力に依つたもので、茲に厚く御礼を申上げる。



の、布哇に行つた先輩は、何かこみ上げる微笑を家族に知らせまいと努力して見られた。このフイナールで、一同、貸し切りの三階食堂で中食を取つた。

本部だより

○田近哲三君の寄稿にある如く相原賀十郎君一姫路市神田町四丁目一〇の一は釈放されましたので同君よ

別項

り次の礼状が洛友会へまいりました。新緑の候貴会益々御隆昌の段慶賀に存じ上げます。私事九年の周囲の生活に別れをつけ去る六月十六日集鴨を出所して家庭人となることが出来ました。在所中は種々御高配に預り厚く御礼申上げます今後共宜しく御願ひ致します甚だ略儀乍ら書中を以て出所の御挨拶申上げます。

洛友会東京支部 趣味部会報告

洛友会東京支部では趣味部会の一環として二月十三日に囲碁会、二月十九日に麻雀会を開きました。囲碁会は佐藤支部長のお骨折りで東電の会場を拝借しました、会する者十七名で成績は別表の通りです。

囲碁成績表

Table with 2 columns: Name, Result. Rows: 松本二段 (1勝, 3敗), 等 (1勝, 2敗).

今般吉岡俊男君が通産省を退官し、関西電力技術研究所に入られた

東京昭七会

	I	II	計	順位
S 7	浅井 3,800 A	(-)13,400 A	(-) 9,600	6
S 12	申島 (-) 7,600 A	(-) 8,500 A	(-)16,100	9
S 14	村上 (-) 3,100 B	37,900 A	34,800	1
S 20	老田 15,600 B	(-) 500 B	15,100	2
S 23	太田 800 B	(-) 2,100 B	(-) 1,300	4
S 15	相木 3,300 B	(-)15,100 A	(-)11,800	7
S 8	蒲生 (-) 7,700 A	(-) 900 A	(-) 8,600	5
S 8	西山 11,500 A	(-) 700 B	10,800	3
S 16	石井 (-)16,600 B	3,300 B	(-)13,300	8

麻雀成績表

福島二段	正木二段	富岡二段	白崎初	占部初	齋藤初	西本初	真崎初	樋口初	長島初	沢田初	荻原初	中村初	丸林初	国枝初
1	2	3	4	0	1	3	1	0	2	3	3	4	3	3
1	1	1	3	4	2	3	5	4	4	5	4	4	4	6
1	1	1	5	3	2	3	2	1	1	1	1	1	1	6

昭八阪神地區

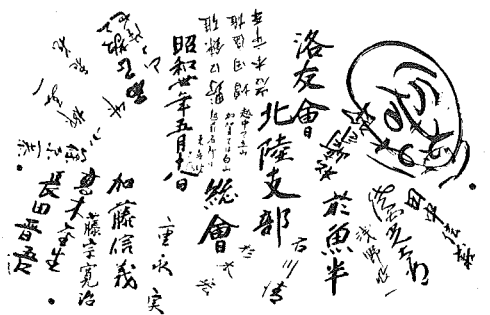
クラス会

のて七月八日東京「同期生で送別会を開き、田村博君が欠席であと会員七名集り愉快に一夜をすごしました。東京は益々淋しくなります。京阪の諸兄によろしく。(淺井光枝)

○去る昭和二十八年十一月十四日嵐山嵐峽館で卒業二十周年記念同窓会を開き、引続いて十五日、清滝神社の洛友会総会にて、いわゆる「校歌」を齊唱といえは聞えがよいが、素焼のノドで合唱して以来、我らの昭八クラスはナリをひそめていていることは、能がないぞと、昭八東京地区の御意見である。そこで阪神地区のものも半定期的に、会合を開くこととした。

○その第一回は去る三月八日、大阪の中央電気クラブに集合、一年ぶりで元気な顔をそろえた。(参会者)石井、大場、岡村、奥中尾、西谷、山下、川村、塩見、宮本、

○第二回は四月二十日、東京より蒲



生君(富士電機)の来阪の連絡があつたので、再び中央電気クラブに集合した。(参会者)蒲生、大場、富川、西谷、川村、野口、塩見、宮本、

○さてこの会合はいつまでつづくかわからないが、毎奇数月の八日、午後六時に大阪の中央電気クラブに集ることになった、ともかくももしこの日に御来阪の所用でもある方は、顔を出していただければ幸甚です。世話役は二十年記念会のまゝです。(文責 宮本)

大六六七 家族クラス会

六月四日阿部先生退職記念会が開催されたのを機会に、家族クラス会を五日に催した。山村の世話、佐藤の好意で観光バスを貸切りで、京都から東南にかけて清遊。天も恵み与えて上々の天気。京阪三条駅に集合。一行二十五名。家族同志のなごやかな挨拶を交わして、バスに乗車。出発。鶯嬢が、京都から案内の面白い説明。学生時代の面影は大分消えている。第一に稲荷神社に参拝。学生時代初午に奥山廻りしてから、今日始めてだといふものもある。

「上林の話。子供の時、蜂がさすと皮膚がふくれると聞いたので、蜂に刺されて見ると、ほんとに、はれ上つた。漆にさわると、かぶれると言うので、顔に漆をなすくつたら、ほんとに、かぶれた。稲荷さんの狐に小使かかると、たると聞いたので、この山の狐の穴に小便したら、何のたたりもなかった。上林の話は、それだけの事だったが、彼の発見発明は、子供の時から実験によつて証明せねば承知出来なかつた事を知つた」

正一位稲荷大明神であつたが、マツカーサーによつて「正一位」を取り上げられ、現在は単に「稲荷大明神」として呉れた。バスガイドは説明次に桃山御陵に参拝。御大葬の時の日時など、ガイドよりは確かだつたので大笑い。茲から佐藤夫妻が加わる。佐藤はこのバスの社長だから、ガイドが説明し難かるうと、社長者がある。「俺んこの奴は、社長なんかへツチャラだよ」と、よく訓練した社長さんだと、一同、舌を巻く。

小幡あたりから茶畑を抜けて、黄蘗山万福寺に詣でる。茲の齋堂で、中食。普茶料理(精進)処が般若湯(酒のこと)、サグビスの積りで、乙性群の方へ、サグビスの積りで、乙薬、松田が席を定めたが、女性群の圧力に耐え兼ね、食事道具と盃を持つて、男性群へ逃げて来た格好が、どうも、家庭で奥さんに甘い習癖がありそうにうかがわれた。

般若湯が、かから中に、必み渡る、山村が、名司会者振りを發揮して、一人一人を紹介する。紹介の名文句は只で読者諸君に披露出来ない。

ヤンヤの拍手が次々と起つた事で想像して貰いたい。

よい気嫌で、腹も万福寺を立ち出て宇治に向う。丁度、宇治は「あがた祭」の当日で、車止め。あがた祭は、家で毎晩やつているからと、割愛して、バスは山科盆地の下醍醐三宝院に走つた。

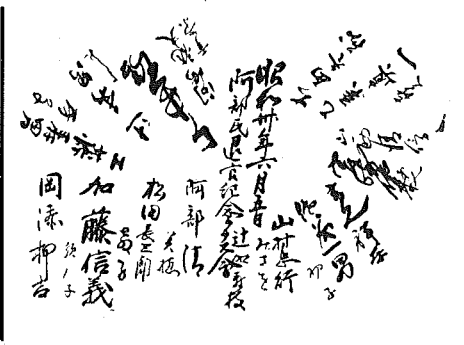
豊太閤の桜狩の夢の跡を、あれこれ眺めて、嘆息を久しうした。

バスは宇治の埋め合せとして、南禅寺に運んでくれた。歌舞伎の「樓門五三の桐」など思い浮べて、南禅寺を拜見して、愈々終りとなつた。日は高し、別るるは惜しいと、バスを二条の河道屋に走らせ、この二階で最後の別れを惜んで、三々五々と解散した。清遊々々と喜んだ。参加者は別項署名の全員。

洛友会々々費領收

昭和三十年度(第一回) 続き

二四	寺西 謙三	志賀 宏	二二	船越 孝夫	大塚 成吉	二一	村上 寛治	木村 義郎	二〇	高橋 圭介	清水幸四郎	一九	坂井 豊治	大槻善三郎	一八	伊藤 義一	角田 寛	一七	須藤 二郎	山本 福雄	一六	松見修一郎	安藤 安二	一五	齋藤 秀夫	山本 福雄	一四	須藤 二郎	山本 福雄	一三	須藤 二郎	山本 福雄	一二	須藤 二郎	山本 福雄	一一	須藤 二郎	山本 福雄	一〇	須藤 二郎	山本 福雄	〇九	須藤 二郎	山本 福雄	〇八	須藤 二郎	山本 福雄	〇七	須藤 二郎	山本 福雄	〇六	須藤 二郎	山本 福雄	〇五	須藤 二郎	山本 福雄	〇四	須藤 二郎	山本 福雄	〇三	須藤 二郎	山本 福雄	〇二	須藤 二郎	山本 福雄	〇一	須藤 二郎	山本 福雄
----	-------	------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------	-------



一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九	〇八	〇七	〇六	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一	昭
智識	脇山	堀川	上尾	露木	川村	明四	大八	新	新	新	新	新	新	新	新
兼則	俊一	栄治	益次郎	純義	公望	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
	田代														
	寛														

六五	四	三	二	一	昭
大西	七里	小山	真崎	深見	昭
冬	義雄	熊治郎	尚忠	源一郎	昭
	井上	松尾	牧	内田	昭
	秀男	正男	正男	馨造	昭

七	六	五	四	三	二	一	昭
土井	小柳	和立	青藤	遠藤	吉田	河合	昭
登兵	真三	昌博	健次	敏雄	精一郎	次男	昭
	尾形	吉田	野際	福間	西本	吉留	昭
	重一	俊博	幸雄	正	憲三	実	昭

一九	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	昭
京極	木村	鍛冶	三国	村田	松谷	甲斐	野田	平井	真砂	十倉	昭
小一	幸一	悦郎	英雄	治郎	健一	靖造	三郎	滋二	野	辰生	昭
	江見	村上	松橋	吉岡	西村	森本	副島	河辺	大板	松本	昭
	英一	耕平	達良	忠	正太郎	雄作	民彦	一	章男	清隆	昭

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	昭
奥沢	福川	安藤	島田	山下	岩橋	森	片山	近藤	小谷	武藤	昭
祥弘	幸男	孝野	洋	義雄	茂樹	敏夫	真一	光男	一郎	良介	昭
	添田	西川	片井	水野	堀江	井上	木本	藤本	中山	籠	昭
	成二	芳邦	正男	博哉	真雄	博文	一	敬造	宗和	善信	昭